

第3章

.....

すみだらしい 食育文化の推進

1 すみだがめざす食育

みんなが笑顔でたのしい食環境を通じて豊かな人生をおくる

2 基本理念（スローガン）

夢をカタチに！手間かけて みんなでつくる すみだの食育
～ 食を通じて育む区民一人ひとりの豊かな人生 ～

食を通じた「すみだの夢」を区民と区が共有し、その実現に向けて“手間をかけ”、世代や分野、地域をこえた多様な主体がつながり、一緒に“つくる”環境を実現します。

また、区民一人ひとりが自ら食育の取組を実践し、その体験から得られる感動が「やりがい」や「生きがい」を生み、みんなで創り合う『協創』の考え方を大切に、力強く推進します。

3 基本目標

「すみだらしい食育文化」を育む5つの基本目標を掲げ取組を進めます。

5つの基本目標は、国の「第3次食育推進基本計画」や「第10回食育推進全国大会 in すみだ 2015」、食育月間（6月）イベントなどでの区民アンケートの結果をもとに、設定しました。



食で「ひと」を育む

「ひと」は、多様な主体をつなぎ、創造的な食育を推進する人づくりの視点です。

幼少期から食に関する学習や体験、地域における協働の食育の取組などを通して、自らを育み、世代や分野、地域をこえて創造的な食育を推進する「ひと」を育てていきます。

また、若者やすみだ食育推進リーダーなど、地域の食育活動をコーディネートする人材を継続的に育成し、多様な主体をつなぎながら「平時の食育」を推進するとともに「災害時の食支援」を担う人材の育成も行います。



食で「まち」を育む

「まち」は、食を通じた出会いが豊かさを生む魅力あるまちづくりの視点です。

すみだ北斎美術館や東京スカイツリー[®]、東京2020オリンピック・パラリンピックの会場となる本区の特徴を活かし、全国、世界から訪れる来街者や、様々な食文化との出会いを通して、新たな発見により豊かさを生む魅力ある「まち」づくりを進めます。

また「人と人のつながり」を大切にし、区内外の食の関係者や生産者と区民がつながる場づくりを進めていきます。



食で「交流」を育む

「交流」は、多様な人々が集い一緒につくって食べるなどの「協食」の視点です。

「すみだの食育」では、多様な人たちが力を合わせて「みんなで食事を一緒につくって、一緒に食べる」などの取組を「協食」とし、家庭や地域の交流を育てていきます。

子どもから高齢者までの多様な人たちが、「協食」の場でコミュニケーションを育み、生きる力を身につけ、生きがいのもてる食環境づくりを推進します。



食で「安心」を育む

「安心」は、食の安心・安全、災害時の食支援に関わるしくみづくりの視点です。

食の安全、衛生、食品表示などについて、食の提供者や消費者が知識を学び具体的に実践する力を育み、両者が意見交換を行うリスク・コミュニケーションの場づくりを進めていきます。

また、食への配慮が必要な方への理解と災害時の支援について普及啓発し、自助、共助の視点から受援力、支援力を高め、災害時の食支援ネットワークづくりを推進します。

食を通してすべての区民が「安心」して暮らせる食環境をつくります。



食で「協働」を育む

「協働」は、食に関わる多様な主体によるネットワークづくりの視点です。

区民、地域団体、NPO、事業者、企業、大学、区などの多様な主体がつながり、食に関する情報を交換しながら、お互いの「夢」を共有し、知識、技術、知恵を出し合いながら「協働」で取り組む食育を継続的に進めます。

また、区内外の食育に関する団体などをつなぐ「すみだ食育 good ネット」と区が「協働」で様々な地域との連携を広げ、新たな取組が創造的に誕生するネットワークづくりを推進します。

4 リーディングプロジェクト：3つの重要項目

「すみだがめざす食育」の実現に向けて、本計画全体をけん引するリーディングプロジェクトとして3つの重要項目を新たに設け、『実践知』を活かした『協創の食育』へと積極的に展開します。

(1) 多様な人々による「協食」の推進

子どもから高齢者まで多様な人々が集い、食事を一緒につくって一緒に食べるなどの「協食」の機会を通じたコミュニケーションや豊かな体験、交流の場づくりを進めていきます。

世帯構造や社会環境の変化などにより、子どもや高齢者の孤食が増え、食に関する支援が課題となり、個人や家庭だけでは健全な食生活を実践することが難しい状況にあります。国は、第3次食育推進基本計画の重要課題に「多様な暮らしに対応した食育の推進」を設け「共食」を推進するとしています。

本区では、子どもから高齢者までが食事を一緒につくって一緒に食べるなど、食体験を共有しながらコミュニケーションを育むことを「協食」として取組を進め、地域の活性化を図ります。



すみだ街かど食堂
(主催：すみだ食育 good ネット)

(2) 国際的な視野でとらえる食文化の普及

“もったいない”の文化から食品ロスの削減、ユネスコ無形文化遺産に登録された「和食」、東京 2020 オリンピック・パラリンピック、世界の多様な食文化などを国際的な視野でとらえ、食文化の普及を進めます。

国内における年間の「食品ロス」(約 632 万トン)は、世界の食料援助量(2014(平成 26)年で年間約 320 万トン)を大きく上回り、課題となっています。

食品ロスを減らすためには、食物への感謝の心を育み、大切に消費していくことが重要です。

また、「和食：日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録(2013(平成 25)年 12 月)され、伝統的な食文化の保護・継承の推進が求められています。

さらに、東京 2020 オリンピック・パラリンピックを契機に、世界の多様な食文化について理解を深めながら、日本の食文化を発信し、交流を深める貴重な機会となります。

これらのことから、国際的な視野で食文化をとらえ、日本の食、すみだの食について積極的に普及啓発を行います。



食品ロス削減セミナー
(主催：環境保全課 協力：すみだ食育 good ネット)



講演会「和食文化と和の心」
(主催：すみだ食育 good ネット)



学校給食とオリンピック・パラリンピックの歴史の展示
(主催：小学校栄養士会、中学校栄養士会、学務課、保健計画課)



オリンピック開催国の料理
(食育イベント開催中に区役所食堂にて提供)
(主催：学務課
協力：株式会社アターブル松屋フードサービス)

(3) 災害時食支援ネットワークの構築

災害時に、乳幼児から高齢者の方や、アレルギー、疾病、食べる機能、宗教・思想などによる食への配慮が必要な方への食支援を着実にを行う災害時食支援ネットワークを構築し、災害対応力のある食環境をつくります。

東日本大震災、関東・東北豪雨災害、熊本地震の教訓から、避難所及び在宅などにおける多様な方々への食支援の体制づくりが急務となっています。

また、自分の命を守るための受援力や災害時に食への配慮が必要な方への理解と支援のポイントなど、様々な機会を活用し普及啓発を進めていく必要があります。

災害時の食支援について、関係機関や関係者などへの情報提供を行いながら連携を図り、「平時」の食育推進ネットワークが「災害時」の食支援ネットワークとして機能する食環境づくりを進め、災害対応力の強化を図っていきます。



災害時食支援ネットワーク検討会
(主催：保健計画課)



すみだ耐震補強フォーラム 2016
(主催：墨田区耐震補強推進協議会
出展：すみだ食育 good ネット)

第4回首都防災ウィーク「レスキューフェスタ」
(主催：首都防災ウィーク実行委員会
出展：すみだ食育 good ネット)



日常から準備できる 災害時の食生活講習会
(主催：NPO 法人すみださわやかネット
出展：すみだ食育 good ネット)

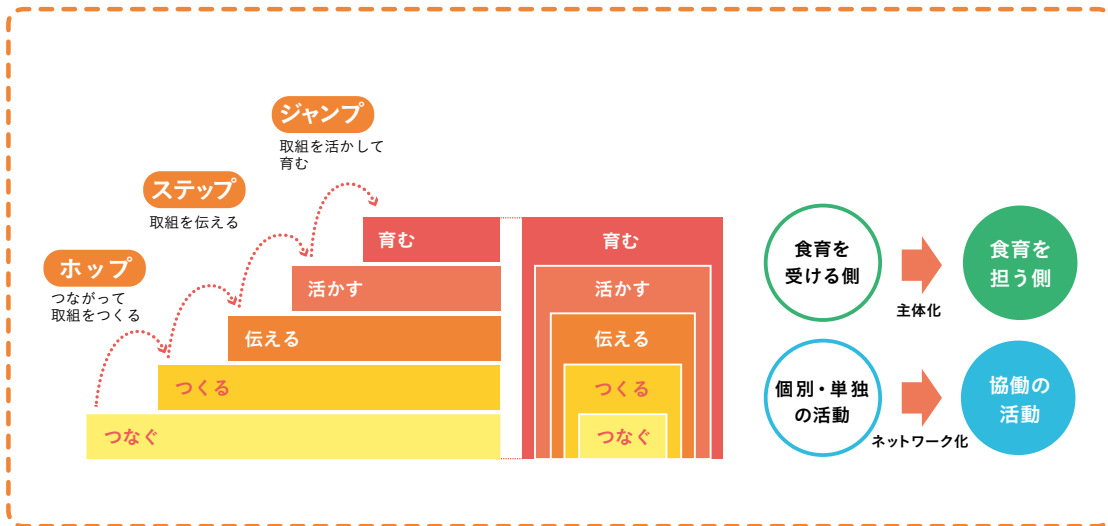
第26回すみだ住宅まつり
(主催：第26回すみだ住宅まつり実行委員会
出展：すみだ食育 good ネット)

5つの行動ステップによる食育の展開（すみだ方式）

多様な主体が取り組む食育を推進するために、「つなぐ」→「つくる」→「伝える」→「活かす」→「育む」という5つのステップを総合的に展開する方式を『すみだ方式』とし、「つなぐ」ことを基本に活動を進めます。

この『すみだ方式』の考えのもと、食育を受ける側から担う側へと主体化し、個別の取組から協働の取組へのネットワーク化を図っていきます。

5つの行動ステップ



5 施策の体系図

「すみだがめざす食育」を推進するために、基本理念と5つの基本目標、リーディングプロジェクト、さらに、計画に基づく各取組を具体的に進めていきます。

区が進める食育は、多世代を視野に入れたこれまでの計画の体系をもとに、ライフステージやトータルライフステージに応じた効果的な食育を継続的に推進します。

また、区民が進める食育の取組は、児童館などを中心に、地域資源を活かした特長的な食育の実践を推進し、区はその活動を支援するしくみづくりを行います。

さらに、食育推進ネットワークをより強化し、区民と区がともに創り合う『協創の食育』を推進する体制とします。

< 施策の体系図 >

すみだがめざす食育

みんなが笑顔でたのしい食環境を通じて豊かな人生をおくる

基本理念（スローガン）

夢をカタチに！ 手間かけて みんなでつくる すみだの食育
～ 食を通じて育む区民一人ひとりの豊かな人生～

区が進める食育の取組 (第4章)

(1) ライフステージごとの取組

- 乳幼児期 (0歳～5歳)
- 小学生 (6歳～12歳)
- 中学生 (13歳～15歳)
- 高校生 (16歳～18歳)
- 青年期 (19歳～39歳)
- 壮年・中年期 (40歳～64歳)
- 高齢期 (65歳以上)

(2) トータルライフステージの取組

乳幼児期～高齢期

区の取組・5つの基本目標との対応

5つの基本目標

-  食で「ひと」を育む
-  食で「まち」を育む
-  食で「交流」を育む
-  食で「安心」を育む
-  食で「協働」を育む

生涯食育社会を目指したライフステージの視点

食に関わる想いや夢を育む5つの視点

区民が進める食育の取組と支援のしくみづくり (第5章)

- ・ 次世代の食育の担い手を育む
- ・ 地域の特徴を活かしたネットワークを育む
- ・ 食育を通してコミュニティを育む
- ・ 災害時の食に役立つ活動を育む
- ・ 世代をこえた新たなつながりを育む

区民の取組・5つの基本目標との対応

リーディングプロジェクト: 3つの重要項目

- (1) 多様な人々による「協食」の推進
- (2) 国際的な視野でとらえる食文化の普及
- (3) 災害時食支援ネットワークの構築

=食育推進ネットワーク=

- ・ すみだ食育推進会議
- ・ 墨田区庁内食育推進会議
- ・ 墨田区庁内食育関連事業担当者会議
- ・ すみだ食育goodネット
- ・ 区民、地域団体、NPO、事業者、企業、大学など
- ・ 1から始める夢プロジェクト